

## 米国 一夜にして40カ国以上に新たな関税を課す

[FreshFruitPortal 2025年8月1日](#)

### 貿易戦争がさらに過熱

貿易合意の期限である8月1日が近い木曜日(7月31日)の夜、トランプ政権は世界の数十カ国を対象とする新たな関税を発表した。最も際立っているのは、カナダ(35%)、スイス(39%)、シリア(40%)、ミャンマー(40%)、ラオス(40%)、ブラジル(50%)に対する関税である。各国を米国との貿易合意にさらに追い込む動きと見られるこの新たな関税は8月7日に発効する。

長年にわたり米国の最大の貿易相手国の1つであるにもかかわらず、今朝カナダが目覚めた時には関税率が25%から35%にまで引き上げられていた。カナダのマーク・カーニー首相はホワイトハウスの発表に対し、Xに投稿された公式声明を通じて反応し、この動きに失望を表明した。カーニー氏は、カナダは南隣の国との交渉を継続するとしつつ、国内市場の活性化と貿易相手国の多様化にも力を入れることを明らかにした。

一方、現在メキシコの輸入品に迫っている25%の関税は、両国政府が貿易合意の取りまとめに向けた交渉の最中であるため、90日間保留するとされている。

中南米諸国については、米国は、トランプ大統領の盟友であるブラジルのジャイル・ボルソナロ元大統領に対する同国の扱いに対する政治的懸念や、米国政府が米国国民の言論の自由に対する脅威だと見なしている事案を理由に、同国に対して貿易合意に向けた大きな圧力をかけている。発表された50%の関税が、その製品の90%を米国に輸出している同国の農業及び関連産業に壊滅的な打撃を与えることは間違いのない。ホワイトハウスは既に、オレンジ果汁、航空機等、一部のブラジル製品に対する例外措置を発表しているが、南米最大の国である同国が最終的に米国から何らかの猶予を得ることができるかどうかは不明である。

これらの関税は来週発効するが、10月5日より前に米国に到着する貨物は関税が免除される。

## (関連記事)米国 メキシコに対する30%への関税引き上げを90日間停止

[FreshFruitPortal 2025年7月31日](#)

ドナルド・トランプ米大統領は、メキシコのクラウディア・シェインバウム大統領との電話会談の後、両国の貿易関係は現在の25%の関税合意の下でさらに90日間維持されると発表した。

このニュースは、トランプ大統領によるメキシコ産輸入品に対する30%の関税が発効する前日に発表された。関税の(30%への)引き上げは、トランプ大統領が20以上の貿易相手国を対象として20~40%の関税を提示し、ソーシャルメディアで公表したいくつかの書簡のうちの一つであるシェインバウム大統領宛ての書簡の中で示されていた。

今回の提示では、トランプ大統領が1期目に署名した米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)に準拠したものを除き、すべての物品に25%の関税が課される。

トランプ大統領は、「我々は今後90日以内、あるいはそれ以上の期間内に貿易合意に署名することを目標に、今後90日間にわたってメキシコと話し合うつもりである」と記している。

シェインバウム大統領は記者会見でトランプ大統領の発表を裏付け、この提示は関税をこれまでと同じ率に保ち、円滑なコミュニケーションを維持するための良い提案であると述べた。同大統領は、自身と米国大統領、その他数人の政府高官による電話会談は約40分間続き、冷静で断固たる防衛を維持するというメキシコの戦略が功を奏したと付け加えた。

執筆者: アイリーン・ロドリゲス